

第34回 熊本大学附属図書館貴重資料展

永青文庫本に見る「旅」

― 細川幽斎文学書を中心にして ―

期間 平成30年11月2日(金)～4日(日)

10時～17時

会場 熊本大学附属図書館 1階

古文書閲覧室・ラーニングコモンズ

同時開催

公開講演会・第13回永青文庫セミナー

演題

永青文庫と「旅」

講師 竹島 一希 (熊本大学大学院人文社会科学部 准教授)

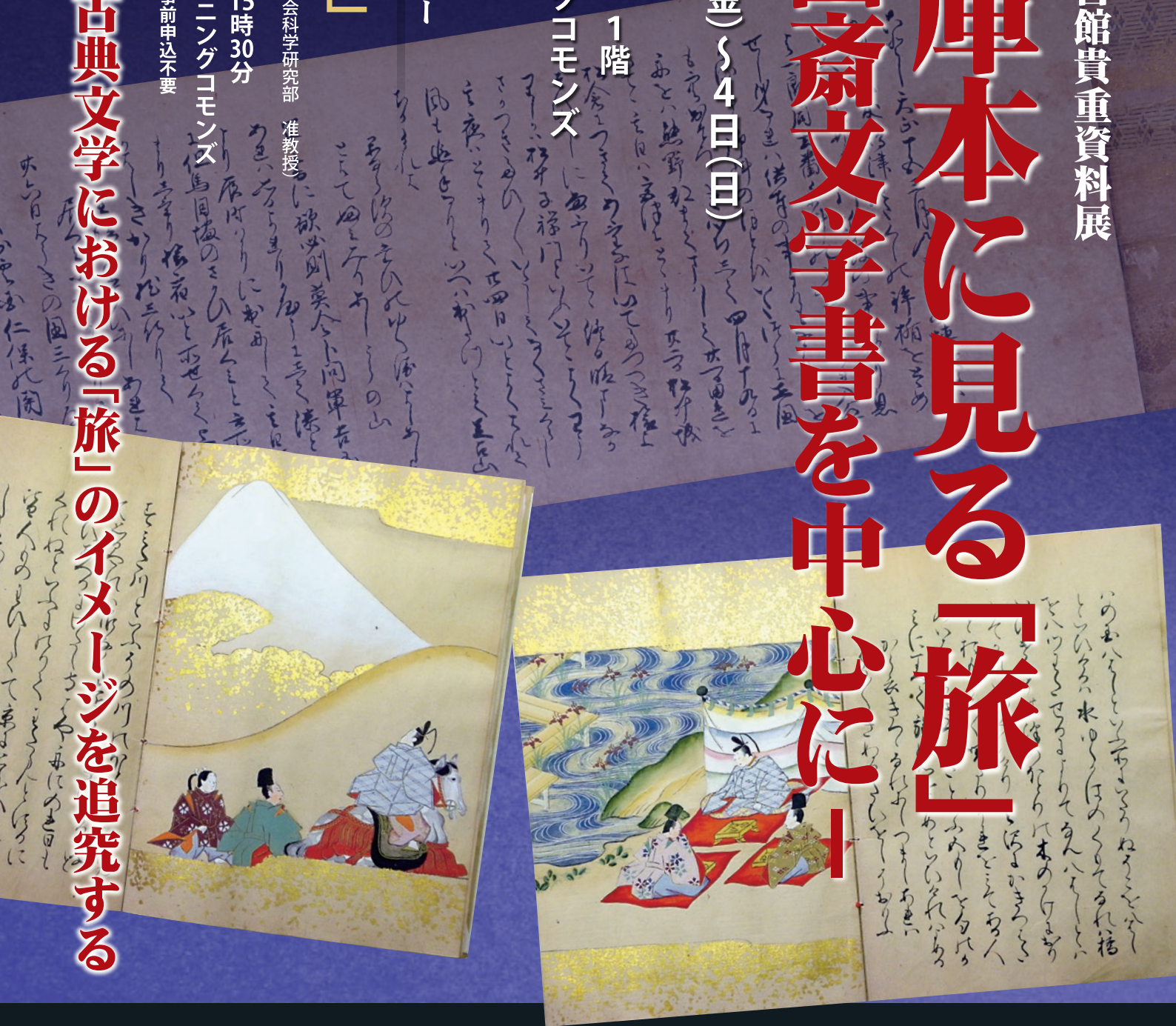
日時 平成30年11月3日(土) 14時～15時30分

会場 熊本大学附属図書館 1階 ラーニングコモンズ

※ 聴講無料(先着140名まで) 事前申込不要

入場・聴講 無料

古典文学における「旅」のイメージを追究する



主催 熊本大学附属図書館・熊本大学永青文庫研究センター

協力 公益財団法人永青文庫

後援 熊本県教育委員会・熊本市教育委員会・熊本日日新聞社・NHK 熊本放送局・RKK・TKU・KKT・KAB



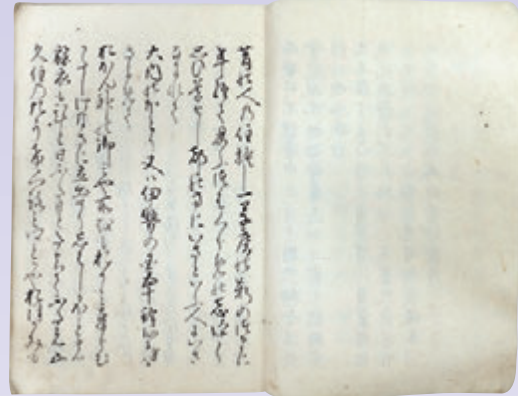
永青文庫本に見る「旅」

— 細川幽齋文学書を中心に —

去る2017年は、細川幽齋が九州に足を踏み入れてから430年目に当たりました。天正15(1587)年3月、豊後国大友氏と薩摩国島津氏との紛争を調停するため、豊臣秀吉は自ら九州に下向しました。当時、丹後国田辺城(京都府舞鶴市)に隠棲していた幽齋も、翌月に出発します。幽齋は、最南は大宰府まで下り、そして同年7月に帰坂しました。この3ヶ月の道中記が『九州道の記』であり、永青文庫には幽齋自筆本が残ります。本資料展は、幽齋が関係した書籍を中心に、古典文学における「旅」のイメージを紹介します。なお、紀行文の代表とされる芭蕉『奥の細道』は永青文庫に収められません。このように、収蔵される資料の種類にも、永青文庫の特徴が垣間見えます。



「いざよひの日記」(永青文庫)



「舟路往還記」(永青文庫)

藤原為家の側室であった阿仏が、我が子為相のために鎌倉での裁判に臨む間に記したもの。京都から鎌倉への紀行文(弘安2(1279)年10月16日~29日)と鎌倉での滞在記(1279年10月~1280年秋)とに分かれる。永青文庫本は流布本系の最善本とされるが、慶長3(1598)年の細川幽齋の奥書によれば、本書は、幽齋が連歌師猪苗代兼如に書写を依頼した、兼如自筆本である。

時習館第二代教授である藪孤山の長姉妙実が記した紀行文。安永9(1780)年前後の成立か。内容は、妙実が熊本から京都へ往復する紀行文である上巻と、熊本近辺散策の記録である下巻とに分かれる。上巻に関して、孤山の序文によれば、まず往路の記が後桜町上皇の叡覧を賜り、復路の記の執筆を促された。その後献上した復路の記も同様に賞賛を得たという。なお、上巻は『藻屑』『松のみどり』の名の異本が報告されている。

永青文庫とは

「永青文庫」は、かつて熊本藩主であった細川家に伝来した美術品や文学作品の写本、そして歴史資料(古文書・古記録)等を所有・管理する財団の名称です。これらの品々のうち、細川家北岡邸(熊本市)の倉に保管されていた数万点の歴史資料や写本が1964年に熊本大学へ寄託され、現在まで附属図書館(中央館)で管理しています。

アクセス



熊本大学附属図書館 〈中央館〉



◎交通センター(仮バスターミナル)から
(16番のりば) 産交バス・電鉄バス:
楠団地、光の森、大津行き等(子飼・熊本大学経由)
「熊本大学前」下車 徒歩3分

※なるべく公共の交通機関をご利用ください。

問い合わせ

熊本大学附属図書館

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40-1

096-342-2212

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/>



熊本大学附属図書館公認キャラクター
「くまぼん」